



る日、1年前の子どもの姿を思い返す季節です。ね、立てるようになった、しゃべれるようになった、自分で食べるようになった等、できる様になった事は数え切れない程あります。は、きりと目に見える成長の姿だけでなく、内面に付けてきている小さな力の育ちも様々なものがあります。

その中でも『見通すカ』はももぐみの保育の中で大切にしてきた事のひとつです。この最近では月齢小の子産も保育者がいつもの場所に座ると『おっ...楽しい事が始まるぞ...』と見通し期待いっはいの目を見ながらひとり、ふたりと集まってくる様になり少人数で集く事が楽しくなっています。.....

給食を乗せたワゴンが通るとどの子も『あっ! ママ』といった見通しと期待が膨らみます。2ヶ月齢小の子はその先は早く食べたいといった思いが強くなり、手を洗いイスに座って食べる見通しとはならず「ママ!!!」の声や『いただきます!』と手を合わせる等催促が溢れます。一方で月齢高の子は他の子が食べ始めていても手を洗ってイスに座りエプロンをつける...といったその先の見通しをもっているのとっても落ちついているのです。このように見通すかはことばがけや視覚的に伝える事、日々のくり返しの中で育まれていきますが、見通す先に期待がないと子ども産はやる気...とはなりません。

Aちゃんのことな姿がありました。.....
 午睡起き、次は大好きなおやつなのにゴ機嫌が今ひとつ。だ...早く起きた子はもう食べ出して、なのに走り回らチャンバーに座りお水で手を洗いあまり好きでない牛乳を一口してからおやつ...期待が伴わない見通しだと気持ちよくやろうとしたのは当然です。そこでAちゃんの午睡のリズムを少し早く起きる事で先に起きた子と同じタイミングでおやつとなり、大好きなおやつと一緒に牛乳も用意し楽しい見通しをもてる様になりました。単にくり返しの中で習慣づけるのではなく、見通し先に期待をもち自らしようとする事を大切にしてみました。.....

他にも「お外行かうか」と保育者が言くと頭を叩いて「ぼうち」と中唱子を催促したり、逆に「チャンバー行かうか」と誘うと『お尻を出し寒いチャンバーか...』と思うのが知らぬふりをしたりと見通すカがあるが故の大変さもありますが成長の喜びを感じる姿です。でも...見通しをもつない事、初めての事には不安がいっはいで進級がそのひとつです。大人は一つの節目、新しい生活と捉えがらますが子ども産にとっては大きな節目ではなく継続的に急やかに進級する様次年度に繋いでいこう...と思っています。とは故、当初は不安な姿も見られまじょうがこの一年間で人と異なる心地良さ受け止のられる事での安心感やあどむが楽しさを味わっている事、そして小さな見通すカがある事が新しい環境にも順応し楽しさを見出していく事と思えます。

< 藤本 >

最後になりましたが保護者の皆さんと子どもの成長の喜びや大変さを話したり、行事を共に楽しんだり、ご意見を頂き学ばせて頂く事もありました。この一年間保育にご理解とご協力を頂きありがとうございました。

ももぐみ担任一同

